要 望 書

東武野田線(野田市)連続立体交差事業の
事業費確保と事業予算の拡大について

平成２８年９月

千葉県　野田市

野田市は千葉県の北西部に位置し、江戸川や利根川を挟んで埼玉県及び茨城県と接し、東武野田線が市域を南北に縦貫し、地域を分断しているとともに、両県の発展に伴う交通量の増加により、主要地方道つくば野田線、野田牛久線と交差している愛宕駅、野田市駅付近は慢性的な交通渋滞が発生し、都市機能や生活形態に様々な影響が生じており、市域発展の大きな障害となっております。

こうしたことから、東武野田線連続立体交差事業により、愛宕駅、野田市駅の２駅を含む延長約２．９キロメートルの鉄道を高架化し、１１箇所の踏切除却と交差する幹線道路の整備を行い、交通渋滞や踏切事故の解消、歩行者等の安全確保とともに、関連事業として土地区画整理事業等を施行することにより、鉄道により分断された市街地の一体化など将来のまちづくりを進めております。

現在、当連続立体交差事業は、清水公園駅及び野田市駅の仮ホームへの切り替えも終わり、仮線に必要な用地の借地についても、土地所有者のご理解により全て整い、全線に渡る仮線工事が出来る状況となっております。

また、駅へのアクセス向上のため、関連する愛宕駅東口駅前広場の一部が仮線に支障するものの、平成２７年５月１日に暫定供用を開始させており、連続立体交差事業による駅部の早期完成が待たれているところであります。

一方、市内６駅のうち、連続立体交差事業で整備を行う愛宕駅及び野田市駅のみがバリアフリー化未対応となっていることから、高齢者等を含めた駅利用者から、事業による早急な整備要望が数多く寄せられている状況です。

連続立体交差事業は、交通障害となっている踏切を除却し、道路整備と連携して都市交通の安全と円滑化を確保する事業

であり、関連する土地区画整理事業の施行により、未利用地を良好な住宅地に変貌させ、宅地の利用増進、駅へのアクセス性の向上、良好な市街地環境の形成など、まちの活性化を進めるというストック効果が図られる事業であります。

野田市は、本事業に合併特例債を活用し、平成 35 年度の事業完了に向け、全力で取り組んでおり、平成 29 年度中の仮線切り替えが必要となっております。

しかしながら、今年度の当連続立体交差事業への社会資本整備総合交付金は、昨年度に比べ増額されたものの、要望額に満たないことから、平成 29 年度の全線仮線切り替えが難しい状況となっております。

こうした状況を踏まえ、国におかれましては、当連続立体交差事業を着実に進めるため、次の事項について格段の御配慮を賜りたく要望いたします。

一　東武野田線(野田市)連続立体交差事業の着実な進捗を図るため、平成２８年度第２次補正予算「未来への投資を実現する経済対策」による事業費確保

一　東武野田線(野田市)連続立体交差事業の計画的かつ円滑な実施のため、継続した事業予算の拡大

一　連続立体交差事業を含め、国における道路関係予算の増額確保を図ること。

平成２８年９月６日

野田市長　鈴　木　　有